

日本の大学における大学教員準備プログラムについて（提言）

2015 年 4 月 20 日

東北大学高度教養教育・学生支援機構

大学教育支援センター

経 緯

東北大学高度教養教育・学生支援機構（旧高等教育開発推進センター）は、2011 年度から 5 年間、文部科学省から特別経費の支援を受け、「国際連携を活用した世界水準の大学教員準備プログラムの開発」に取り組んできた。同時期に教育関係共同利用拠点「国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点」の認定も受け、大学教員の能力を構造化するとともに、キャリアステージに対応した発達モデルを想定し、初期キャリアの教員に必要な能力開発と合わせ、大学院生を対象として大学教員準備プログラム（Preparing Future Faculty Program: PFFP）を実施してきた。

プログラムの開発・実施には、当初、オーストラリア・メルボルン大学高等教育研究センター（Melbourne Centre for the Study of Higher Education）の全面的な協力を受け、次いで、アメリカ・カリフォルニア大学バークレー校 GSI 教授資源センター（GSI Teaching & Resource Center）の協力を得た。

また、2011 年から 3 年間にわたり、国内大学において大学教員準備プログラムに取り組んできた北海道大学、筑波大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、立命館大学、広島大学と共同で研究会を開催してきた。5 年間の活動を終え、そこから得られた知見を整理し公表するとともに、プログラム内容を参考として付記する。日本の大学において大学教員準備プログラムを実施する際の参考に役立てば、何よりも幸いである。

1. 大学教員準備プログラムの理解のために

(1) 大学教員養成プログラムの 2 つのルート

現在行われている大学教員養成プログラムには、①ファカルティ・デベロップメント活動の一部として、大学教員を志望する大学院生を対象に行われているもの（いわゆるプレ・FD という呼称を使うケースが象徴的。北海道大学 PFF、東北大学 大学教員準備プログラム、名古屋大学 大学教員準備プログラム、京都大学文学研究科プレ FD プロジェクト、広島大学教職担当教員養成プログラムなどが該当する）、②大学教育の改善のための TA など教育補助者のスキルを向上させ、場合によってはあらたな職種として教育効果を高めるために、必要な訓練を行うものがある（北海道大学 TA 研修会、同 GSI [Graduate Student Instructor] 制度、筑波大学 TF [Teaching Fellow]）。②の場合には、教育活動に焦点化された性格を持つ。このパターンは、ほぼアメリカの大学教員養成プログラムの状況と同じである。

(2) プログラムの性格

大学教員を志望する大学院生対象のプログラムは、大学院生のキャリア支援と大学院教育改革という2つの性格を持つ。両者は区分しがたいが、キャリア支援的性格が強いのは、北海道大学、筑波大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学であり、広島大学は、教員養成大学・学部の教職担当教員養成を進めている点で、大学院教育改革としての志向が明確である。

キャリア支援が目的であるとしても、博士課程大学院で行われる教育訓練は、専門分野の研究能力育成に重点があり、企業・官庁はもちろん大学での業務と対応しておらず、キャリア支援を明確にした大学院教育が求められている。このことは、日本だけでなく、アメリカの大学院でも同様な指摘がされ、全米大学院協会（CGS）は、社会の必要性和博士課程大学院とを結びつけるために、PhD 以外の Preparing Future Profession Program（専門職業準備プログラム）の必要性を提起し、その一つとして PFFP を位置付けていることから理解できる（The Path Forward The Future of Graduate Education in the United States, 2010）。

すなわち、PFFP は、博士課程大学院卒業者の多様性をふまえた大学院教育を展開する具体的なケースとして、重要な役割を持っている。

(3) 準備か養成か—大学院教育全体での位置付け

PFFP は、大学教員への入職のための準備プログラムか—すなわち、初期キャリア教員に対して必要なスキルを与え、職業的準備か、それとも大学教員の能力全体を視野に入れた養成か、という大きな選択肢がある。前者の場合、早くから取り組んできた名古屋大学の例に見られるように、高等教育研究者が中心となって企画・実施され、独立性が高く、大学院・研究科での研究訓練と相補的に教育能力の育成に主眼が置かれる。後者の場合には、研究科における PhD 取得のための研究指導と連携し、大学院教育全体の中で位置付け、専攻単位の教育プログラムや研究指導と合わせて設計され、それぞれの研究分野での教育論（例：物理学教育論）も含む豊かなものになる。もっとも明確な大学教員養成プログラムは広島大学である。しかし、現状では研究科・専攻単位の教育課程に含まれることは少なく、独立した大学教員準備プログラムとしての位置づけが中心になっている。

2. 大学教員準備プログラムとして備えるべき内容のために

(1) 研究も含む全面的発達をめざす

PFFP は、授業設計や運営などの教育に関する能力形成活動だけでなく大学教員の能力の全体構造を視野に入れて設計されるべきである。

アカデミック・ライティングや研究発表、プレゼン力など研究活動を有効に発展させる内容も、院生自身から高い期待が寄せられている（北海道大学、名古屋大学）。FD や PFFP が、教育のみを対象としていると捉えられることは、研究と教育を統一的に進めようとし

ている教員や院生が、これらの活動を忌避する原因にもなり、生涯にわたる能力形成にとってもマイナスである。

(2) 大学教授職を含み、教育に関する幅広い視野を育てる

大学教員は、日々の教育実践や研究活動を通じて教育研究能力を形成するが、自己の受けた教育経験がモデルになりやすい。自己の出身大学とは異なる機関で役割を果たすためには、様々な教育のアプローチを知ることが重要である。特に、初期キャリアにおいては、自分の担当授業をスムーズに運営することに関心が向きがちであるが、キャリア・アップに伴い、学科・学部のカリキュラム全体を企画したり、学習支援や学生支援にも関与したりする。授業スキルの育成だけでなく、教育活動全体を展望する視野を若いうちに育てることが重要である。

(3) 活動重視のプログラムであること

PFFP では、大学教授職、大学教育の目的・理念、授業の設計と運営、成績表など教育活動を進めるための知識・技能の習得が目標とされる。この際、討議・レポート・実験など院生の活動を重視することは、教育活動が目的的な能動的活動であることや、知識を身体化して活用する場であることからふさわしいと言える。筑波大学のように、教育内容開発への参加・取り組みも1つの有力な方法である。

(4) 専門性向上のコアとしてリフレクション能力を重視する

PFFP のコアは、教育活動を実施できる能力、とりわけ、授業科目の設計（シラバス）及び授業運営能力である（北海道大学、一橋大学、京都大学）。こうした、研究指導では得られないスキルを身につけるだけでなく、教育活動を反省的に総括して改善するリフレクション能力を育てることは重要である。

そのためには、マイクロ・ティーチングや模擬授業などさまざまな形での授業実習と、同僚院生、教員などによる助言活動（メンタリング）が大きな役割を果たす。助言活動を行う者は、必ずしも教育方法学などの専門家である必要はないが、その専門性や熟練が大きな課題である。

また、授業実習の場所は、学生の多様性を理解するためにも、アメリカの PFFP が協力的な方式で行っているように、院生が現に所属する大学以外で実施することが期待される。この点では、広島大学のように院生 OB が勤務する大学・短大での実習は注目すべきである。大学教員として就職が決定している院生の場合、就職先の大学でこうした機会を作ることと考えて良い。

(5) 分野と世代を超えた交流を重視する

PFFP は、専攻・研究科を超えて多様な専門と背景を持つ院生が参加することで、狭い専

門を超えて交流し、視野を広げる機能も持つ。大学入試や学士課程教育が学部・学科単位で行われるため、他分野の学生・院生とまったく議論したりする機会のなかった大学院生も珍しくない。大学教員にとって求められる能力の一つは、学部・学科の枠を超え、大学レベルでの教育研究や、高等教育全体の課題を理解して行動することであり、PFFP はそうした能力の基礎を形成する貴重な役割を持つことを意識的に追求すべきである。

(6) 研究科との連携を強める

PFFP は、採用後の新任教員に対する専門性開発活動と密接な関連を持っており、相互にどのような役割分担を行うかが、その発展にとって重要である。研究科・大学全体と大学教育研究センターとの連携や役割分担が重要である。授業実習にしても、実際に行うのは、院生がそれぞれ研究を行っている専門分野の授業であり、研究科・専攻が参加した PFFP は、教育力の質を向上させる上で極めて有効である。

(7) オンデマンドで供給する

PFFP の実施時期とタイミングも重要である。就職可能性や研究の進捗状況に対応し、オンデマンドでプログラムへの参加が可能となるような対応性が求められる。

(8) 効果を明確にする

PFFP の効果測定は、今後重要となる。プログラム参加後の参加学生による評価、入職以後の教員生活を経ての評価など、短期的・長期的視野での評価方法が開発されるべきであり、PFFP の改善にとっても有益である。広島大学のポートフォリオは、注目できる。

参考：東北大学における PFFP の活動については、2011 年度「東北大学大学教員準備プログラム報告書」、2012 年度・2013 年度「東北大学大学教員準備プログラム／新任教員プログラム報告書」参照。

※ 報告書をご希望の方は、東北大学高度教養教育・学生支援機構 大学教育支援センター（Tel: 022-795-4471, Email: cpd_office@ihe.tohoku.ac.jp）へご連絡ください。

2015 年度 東北大学 ジュニア・ファカルティプログラム



ベーシックプログラム

- ① 大学教員のキャリア／役割に関する講義
- ② 比較の目を育てるワークショップ
- ③ 教授学習理論に関する講義
- ④ シラバス作成ワークショップ
- ⑤ マイクロティーチング，模擬授業
- ⑥ 授業参観
- ⑦ リフレクションの理論と実践
- ⑧ 先達コンサルテーション
- ⑨ プログラム OB/OG，先達との交流
- ⑩ 院生指導法，研究倫理

ベーシックプログラムの所用時間

① 大学教員のキャリア／役割に関する講義	1.5h
② 比較の目を育てるワークショップ	2.0h
③ 教授学習理論に関する講義	4.0h
④ シラバス作成ワークショップ	3.0h
⑤ マイクロティーチング，模擬授業	8.0h
⑥ 授業参観	4.0h
⑦ リフレクションの理論と実践	0.5h
⑧ 先達コンサルテーション	2.0h
⑨ プログラム OB/OG，先達との交流	-
⑩ 院生指導法，研究倫理	2.0h
成果発表会	2.0h
合計	29.0h

オプション

① 国内他大学調査訪問	国内の大学を訪問してのフィールドワーク
② 海外他大学調査訪問	海外の大学を訪問してのフィールドワーク

2013 年 9 月 23 日 大学教員をめざす大学院生の全国交流会 「大学教員準備プログラムの発展を目指して」 東北大学高等教育開発推進センター

大学教員準備プログラムに関する各大学の取組み

大学名	名称	目的	提供形式	内容
京都大学 (CPEHE)	大学院生のための教育実践講座		1 日集中の Basic コースと Advance コース（講義＋討論）	大学の授業の課題，授業における教師の役割，模擬公開授業（advanced のみ）
	文学研究科プレ FD	OD のキャリア支援	研究科横断型授業＋オムニバス講義の実践	世界の大学教育改革の動向，授業デザイン，グループワーク，模擬授業実践＋検討会
一橋大学 社会学研究科 →キャリア支援室	TF トレーニング・コース	学部学生に対する教育技能の習得	集中講義＋授業観察＋授業実習	授業設計，シラバス作成，授業分析・リフレクション，評価，高等教育改革の動向
広島大学 教育学研究科	Ed.D 型大学院プログラム（教員養成教育の教職課程担当教員養成）	教職課程担当教員としての資質能力を向上	MC, DC5 年間にわたる正規のコース，GP の支援	授業，国内外の授業参観，学校等のインターンシップ，国内外の専門家による指導，ポートフォリオ
立命館大学大学院 キャリアパス支援室	Preparing Future Faculty（大学教員準備セミナー）	大学教員として習得しておくべき知識・技能の修得	2 日間ワークショップ＋オンデマンド講義	授業設計，シラバス作成，評価
北海道大学	PFF 講座	Teaching と Writing のスキル向上	UCB 教員による 5 日間の集中講座	授業の基礎と Academic writing
東北大学 (CAHE)	東北大学 大学教員準備プログラム	大学教員として習得しておくべき知識・技能の修得	半期の国内研修＋海外派遣	大学教授職，授業の基礎，マイクロティーチング，授業参観，海外フィールドワーク，リフレクション
東京大学	東京大学フューチャーファカルティープログラム（PFF）	Teaching に関するスキルおよび知識の獲得，ネットワーキング	プレワークショップ，授業「大学教育開発論」，ポストワークショップ	シラバスの書き方・活用方法，授業デザイン，学習者が主体的に学ぶ手法，マイクロティーチング，専門領域を超えたネットワーキング
名古屋大学	大学教員論／大学教員準備プログラム	大学教員になるために必要な知識と技能の獲得，多面的な職務の検討	夏季に 3 日間の集中講義	高等教育機関とは，大学教員のライフコース・職務への理解，授業設計，学生の書く力の養成，学生のキャリア形成支援，

※本一覧は 2013 年度当時の各プログラム内容をまとめたものである